

加工用ナス「でわこなす」の育成経過と特性

三 浦 孝 雄・鈴 木 洋
柿 崎 正 策・相 沢 富 夫

(山形県農試)

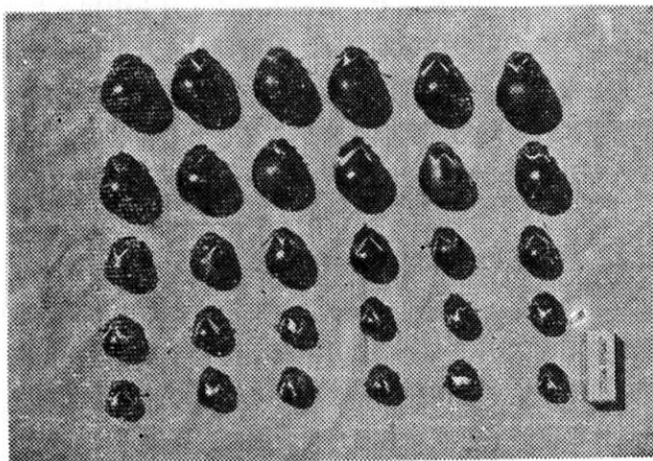
1. 育 成 目 的

山形県には、古くから庄内地方に「民田」、置賜地方に「窪田」、「八ッ房」等の丸ナスが栽培されているが、長ナスに比べ果実に弾力があり、長期塩蔵しても裂果あるいは潰れることが少なく、加工に適するところから、最近からし漬、こうじ漬として県内外に出荷され好評を博している。

しかしこれらの品種は草勢が弱く、梅雨直後になるとMg欠症状の発生がいちじるしく、収量が低い欠点がある。また、ほかに加工用優良品種がないために、品種改良が強く要望されていたところである。

そこでこれらの欠点をなくし、優良な加工用丸ナスを育成しようとして1953年から育種を開始したが、一応目的に近い品種を得たのでその概要を報告する。

2. 育 成 経 過



第1図. 「でわこなす」の果形
下から2段目までが加工用収穫時の大きさ(10~30g)
第1表. 特

1953年に当場で採種してきた「窪田」と「民田」をそれぞれ両親とする交雑採種を行ない、その後代について育種目標に近い系統で選抜してきたが、その間当場は場及び現地において系統の比較を行い検討した結果、 $K \times M_2$ の F_7 がほぼ固定し、草勢強く多収なことが認められたので、1961年に山形県は出羽の国に由来し、「でわこなす」と命名し、普及を図ることにした。

ただちに県内村木沢そ菜採種組合に採種ほを設置し、種子の増殖を図り配付しているが、置賜地方の「窪田ナス」栽培地帯は漸次本品種に切りかえられている。

3. 特 性

特性は第1表及び第1・2図に示されるように、「でわこなす」は「民田」・「窪田」よりやや葉が大形で、初期の伸長が早く旺盛に发育する。又、これらの品種に比べてMg欠症状の発生が少ない。ただし、「群交2号」や「黒光新2号」のような中長系からみれば発生は多い。



第2図. 「でわこなす」の着果状況
性

品 種	葉 の 大 小	草 勢	草 姿	草 丈 (cm)		Mg 欠症 状の種類	果 形	へ た 下 色	花痕の 大 小	果 色
				5月26日	6月3日					
でわこなす	やや大	強	開 張	43.1	45.9	少	短 卵	黄 白	大	紫 黒
窪田 (山田)	中	やや強	"	34.8	37.2	中	巾 着	"	"	"
民田 (小倉)	小	弱	"	38.0	39.5	多	短 卵	"	やや小	"

果形は収穫初期に幾分長目の果実も発現するが、へた下黄白の短卵形で大体揃う。果色は紫黒色を呈し、「窪田」・「ハッ房」のように白ナスの発生が少い。ただ、「窪田」・「ハッ房」のように花落ちが大きい欠点であるが、加工用に最も適する大きさは、1個10～12gの極小果であるから、障害とはならないようである。

「でこなす」の特徴の一つは、他の加工用品種に比べて収量の多いことであるが、1960年度における現地収量調査及び当場における収量調査では第2・3表のとおりである。第2表では、「でわなす」と現地の「窪田ナス」を3番果以降に着果した重量を比較したものであるが、収量比が「窪田ナス」より10.7%の増収となっている。

第3表では、収穫全期間にわたり加工用に適する大きさに収穫したのであるが、1株当たり収穫個数は「民田」が131個「窪田」177個でそれに対し「でわこなす」が227個で非常に多い。当然重量も多く10a当り換算重では、「民田」が4,195kg、「窪田」が4,053kg、それに対して「でわこなす」が5,003kgとなつている。その収量比は「民田」を100とすると「窪田」が96.6、で「でわこなす」が119.2とな

第2表. 現地における収量調査

品 種	1区当り重量 kg	1株平均重 kg	10a当り換算重 kg	収量比 %
でわこなす	322.5	1.043	3,225	110.7
窪田(小林)	291.3	0.949	2,913	100.0

備考 試験地の所在地：米沢市窪田町字家中

試験担当者：小林知英

試験面積：1区1a(309株)

栽植密度：畦巾80cm, 株間40cm

収量調査：現地の慣習として1・2番果は個数売りのため調査しなかった。

っている。

からし漬・こうじ漬等について加工価値の検定は行っていないが、現在加工産地に普及され、加工業者と取引されていることから心配はないようである。

4. 普及地帯

以上のような特性結果から、県内外の加工を目的としたナスの栽培地帯に普及性があると考えられる。

第3表. 収 量 調 査 (山形県農試)

品 種	個 数	重 量 kg	平均重 g	1 株 当 り		10 a 当 り 換 算 重 kg	収 量 比 %
				個 数	重 量 kg		
で わ こ な す	2,042	24.532	12.0	227	2.725	5,003	119.2
窪 田 (佐 藤)	1,680	19.878	12.4	177	2.208	4,053	96.6
民 田 (小 倉)	1,786	20.568	11.5	131	2.285	4,195	100.0

注. 1 区：4m²(9株)

播 種 期：3月12日

定 植 期：5月20日

収穫期間：6月10日～10月1日

もも「大久保」の缶詰用サイズ果実生産のための栽培法について

桑 原 功・山 根 一 男・上 野 勇

(福島県園試)

ももの缶詰原料果の大きさは140g前後が適当とされているが、生食用果実を生産するための普通の栽培法では、果実の大きさは200g内外となり、缶詰用としては大きくなり過ぎる。そこでわれわれは剪定あるいは摘果の程度をどのように変えれば缶詰に適した大きさの果実が得られるか、またそのような方法を続けることに無理

があるかどうかを検討している。

第1年目の昭和35年には、普通剪定—普通摘果、普通剪定—弱摘果、弱剪定—弱摘果の3区を設けて試験した結果、生食用果実生産を目的とした普通剪定—普通摘果区の約1.6倍に着果数を増した普通剪定—弱摘果区が、おおむね缶詰に適合した大きさの果実を生産したので、